

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>一つ、入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え、命を護る。二つ、一瞬の笑顔を求めて。が楽舎の理念であり、この理念は職員全員で考えたもので、後から入社した職員にも理解してもらおう研修している。また、ユニットの目標、そして毎月の目標を立てて、取り組んでいる。</p>	<p>理念が常にケアの中心にあるような研修を行っている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の朝礼時(申し送り時)に唱和している。また、毎月、月初めにその月の理念を職員が順番で考え、全員で守り、ケアの向上に努めている。</p>	<p>引き続き取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の常会や地域福祉市民懇談会などでグループホームの理念、役割をお話ししたり、楽舎新聞を定期的に発行し、各方面に配布するなどして、理解して頂けるように取り組んでいる。</p>	<p>入所時や見学者の方など引き続ききちんと理解して頂けるように分かりやすく説明していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的にあいさつを交わすなどして、季節に物を届けに来て下さったりと、気軽にホームへ近隣の方が遊びに立ち寄れる様な雰囲気になるように努めている。</p>	<p>地域のボランティアが花を生けに来て下さったり、お茶を立てに来て下さり、入居者と交流している。小学生の登下校時、入居者と共に見守り隊としてあいさつをし、小学生も声を掛け返してくれる。近所の郵便局やたみ屋さんへ、入居者が日常的にお茶を飲み立ち寄っても、快く迎えてくれる関係作りができています。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域のイベントへ参加したり、グループホームの行事に近隣の方を招いたりしている。(文化祭、老人会、他施設への文化祭への参加)</p>	<p>入居者の地元(出身)の祭りへ参加したり、福祉フェスティバルへの参加、幼稚園や小学校との交流会や、入居者の昔馴染みの家へ遊びに出かけるなどこれからも地域とのつきあいを大切にしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>音楽療法を月に約4～5回行い、案内や声かけを地域の高齢者や、老人クラブに出し、参加して頂き、介護予防に努めている。(西田コミュニティーセンター、福祉公社などへの案内をしている。)</p>		<p>今年はずっと何か継続して参加して頂ける様に思案中である。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価の改善点をすぐ改善し、より質の高いケアに取り組んでいる。</p>		<p>苦情処理、契約書内の誤字、入居してからの情報をより多く記録に残すなど、改善した点である。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を行い、楽舎の理念、ケア方針など地域の方に理解して頂く様に努めている。介護予防や入居者の入退所の理解をして頂いたり、メンバーを固定しないで多種多様な方の意見をケアに反映出来るようにしている。</p>		<p>現場職員やより多くの地域の意見を取り入れている。又、情報提供もきちんと詳しく報告している。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム連絡会へ参加し、情報提供を取り寄せたり、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>市町村事業(赤い羽根共同募金や研修会)に積極的に参加し、情報交換や相談の機会を設けている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、研修会に積極的に参加し、家族への説明を行っている。</p>		<p>社協の研修等への参加(成年後見制度、使用1人)</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員は、研修等、積極的に学ぶ機会を持ち、虐待や身体拘束は行わないという事を全員が認識しており、新値拘束マニュアルを作成して、職員の身体拘束に対する理解を徹底している。</p>		<p>グループホームの支援方法の理念でもあるように身体拘束はしない方針をかかげているので、行わないのが基本である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書にきちんと記入し、入所時、入所後もその都度状況に応じて説明し、理解して頂いている。説明を行う時は、2人体制で説明しており、質問に適切に返答できる様に努めている。</p>	<p>記録として介護録など記入している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や意見、不満が寄せられた時には、その原因や入居者の立場に立ったサービスが提供できるよう、職員で会議を開催したり、2ヶ月に1回行う運営推進会議を始め、家族などで相談や悩みなど第三者へ伝える機会を設け、それらを運営に反映できる様努めている。</p>	<p>運営推進会議には、毎回家族や入居者にも参加してもらいその場で意見を言ってもらうようにしたり、苦情処理の意見箱を設置している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回入居者の日々の様子を、お手紙にて家族へお知らせしている。手紙と一緒に、その月のおこずかい出納長(一覧)や、ホームで何かある時にはあいさつ状や案内を出すなどして報告している。</p>	<p>「こんにちは楽舎です」というホームの新聞を作成し、家族や地域の皆さんにも日常の様子分かる様にしている。(お手紙と一緒に送っている)行事や日頃の様子はいつでも見られる様にアルバムを誰もが見られる場所(玄関、ホール)へ置いている。又、健康診断のコピーも送付している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に気がかりな事や、相談などを気軽に話して頂ける様声かけをしており、運営推進会議や家族会などで第三者へ伝える機会を設け、家族の立場に立ったサービスが提供出来る様に、家族も交えて話し合い、意見交換などし、運営に反映できる様努めている。</p>	<p>苦情の相談窓口を、施設長とはまた別の職員が担当しており、家族が言いやすいように配慮している。玄関へ意見箱も設置しており、いつでも意見を寄せて頂ける様にしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回職員研修を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。運営者、管理者は職員の個人面談を行い、意見や提案を聞いて反映させている。運営者は、定期的又は、時間の許す限り、顔を出して職員との交流に努めている。</p>	<p>月に1回職員研修を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。運営者、管理者は職員の個人面談を行い、意見や提案を聞いて引き続き反映させていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員はお互いに勤務の調整について、理解、納得しており、要望に応じて柔軟な対応ができるように、必要な時間帯に職員が確保されている。</p>	<p>今後も継続して行いたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係を大切に、ユニットの移動や担当は出来るだけしない様にしている。ホームの職員の移動は最小限に努めており、また退職者も少ない。</p>	<p>早くから雇用し、顔なじみの時間を作っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者クラスを育てる為、研修に積極的に参加している。外部での研修発表をしたり、内部での(月1回、第1火曜日)職員会にて啓発にも力をいれている。</p>	<p>ケアマネ、認知症専門士などへの試験への挑戦など今後も継続して行いたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、協議会での研修に参加し、情報を交換し、事業所に持ち帰り支援に活かしている。又、他の地域のグループホームの方々とも勉強会をしている。</p>	<p>研修等にて知り合った管理者、又職員との情報、意見交換も積極的にしている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>互助会の組織をつくり、定期的にボーリング、飲み会を皆で行いリフレッシュしている。また今年は、チームを作り、地元で開催された「泥田バレー」に参加し、楽舎PR、そして職員同士の結束が深まった。</p>	<p>休みの日を出来るだけ有意義に過ごせるよう、希望休を取り入れている。ソファを入れてゆっくり過ごせる時間をもてるようにしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、一人一人の職員の研修等参加する事により取り組みや支援内容に周知し、個人面談により1年に1回の人事考課に反映している。</p>	<p>研修により多く参加するように積極的に働きかけ、職員の質、向上に努めている。研修の手当などを行っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前から、家族や本人から詳しく話を聞くなど担当者会議を行い、アセスメントをし、過去の生活歴なども聞き、本人の理解に努め、安心して暮せるよう話し合いを進めている。</p>	<p>本人が困っている事などよく聞いて楽舎での生活の中で、その困っていることが、解決又は、軽減できるように努め、本人との信頼関係がしっかりと築けるよう毎日のかかわりの中で、話をよく聞いたり、思いを受け止めて差し上げられるように、努力していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>居宅のケアマネより事前に情報を頂いて、アセスメントの時、話をよく聴くようにしている。会話の中から家族が困っている事、心配な事などを聴いて真摯に受け止める努力をしている。</p>	<p>家族などの話を親身になってよく聞き、職員が相談や心配事などをいつでも聞くように、引き続き支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、本人、家族、担当医など周辺の関係者と面談し、職員会議なども併せて行い、必要としている支援を見極めるよう努めている。		職員は常に勉強し、(心理的学習など)又どの様なサービスがあるのかも、日頃から情報を得るようにしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所される前に、本人の不安な思いができるだけ少なくなるように、しっかりと話をし、できるなら、1度楽舎にも来て頂き、入居者の方と一緒にお茶や、話をし頂き、雰囲気を感じて頂いたり、入所前にお試し入所を利用して頂き、楽舎に慣れられてから入所して頂いている。又、アセスメントに行く際には、ケアマネだけでなく、必ず現場の職員も同行している。		引き続き、入居前には見学に来て頂いたり、試し入所などの支援を行い、安心して、納得してサービスを受けていただけるように、努めて行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活を入居者の方と共に過ごし、一緒に料理を作ったり、一緒に食事やお茶をしたりしながら、話をし、楽しい事だけでなく、本人が悲しいときには、共に涙し、また共に笑い、介護する、されるだけの関係でなく人生の先輩として、尊敬する気持ちを常に持って接している。		若い職員が多いので、料理や1年を通しての習わしなどを、入居者の方から日々、教えて頂いている。引き続き、1対1での個別での支援をしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会にこられた際などは必ずお茶を出す様にしており、一緒にお茶を飲んで頂いてその時にグループホーム内での出来事や、本人の様子をお話ししたりして、喜怒哀楽を共に感じあえるように心がけている。		楽舎での行事(笹まき作り、七夕会、ありがとう会)には必ず家族へ、案内を出しただけ参加して頂き、楽しい時間を共に過ごして頂いている。又、家族と外出、外食をいつもして頂いたり、お正月やお盆には外泊されたりと、家族との時間やつながりを大切に頂いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	楽舎に入所される前の、これまでの家族との関係などを事前～面会時によく聞くなどして、その人に合った支援方法を見極め、職員が橋渡し役となってよりよい関係となるように間に張り、支援している。		入居される前は、認知症の為に、家族と仲が悪かった方がおられたが、グループホームに入居されてから、精神が安定され、行事(ありがとう会)に家族が参加され、絆を感じて頂けるまでになった。(「穏やかに、仲良く話ができる日が来るとは・・・」と家族より、感動して涙されていた)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中お見舞いや年賀状など、季節ごとに親しかった友人や家族の方に手紙を出したり、いつでも電話がかけられるように支援しており、大切な人とのつながりが途切れないようにしている。		地元のお友達の家へ、相手の了解を得て、遊びに行き、なじみの関係を大切にしている。また、いつも買い物をしていただいたお店で、買い物をして頂いたりしている。これからも引き続き支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方同士のトラブルが起きないように職員が常に間に入り、入所者間を取りもつようにしている。個々の良い面を皆さんにお話しするなどし、誉めたり、認め合うように支援している。		トラブルが起きないように間に入り、特定の誰かが集中して攻撃を受けないように(孤立しない)引き続き支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族と管理者とで連絡をとりあい、退所後の状況を把握して付き合いを大切にしている。また、職員もお見舞いに定期的に行き、元気な姿を楽しみに、喜びにしている。		今後も、退所されてからも、様子を見に行くなどして、関係を大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と共に過ごす事で、どんな思いで過ごしたいか、希望などを知るように努め、尊重している。たとえ、不本意で入居されたとしても、笑顔が一瞬でも出てくださいるように、その人に寄り添うことで不安を解消出来る様に努めている。		1人1人、思いが組み取れるようにそっと寄り添い、引き続き入居者の過ごしやすいように支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人が今までどんな暮らしをされてきたか、生い立ちや出身、好きな嫌いな事、趣味等、入居段階で本人、または家族に記入してもらい、聞き取りも行っている。職員全員がそれらを把握し、楽舎での生活に反映出来るように支援し、今までの生活が継続出来る様にしている。共に生活する中で、心の内面を知るように職員は努めている。		家族の面会時にも、少しずつ話を聞くなどして、より入居者の生活歴、人生史など知り、把握に努めている。日頃から、ふとしたひとときに、ゆっくりと入居者と話をする機会を持つ様にし、昔の出来事などもたくさん話して頂ける様に、これからも関わりを持っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の方のBTや毎日の状況等カルテに記録して一日一日の過ごされかた、特変など把握している。個々のペースを大事にし、入居者の得意な事を活かせる場面を作り、暮らしの中での役割作りをしている。		茶碗洗い、食器拭き、お盆拭き、台拭き、モップ掛け、洗濯干し、たたみ、配り、玄関掃き、お茶だし、おしぼり作りなど個々の得意な事を、その方のペースですて頂いており、引き続き支援して行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の方が、よりよく暮していただく為に本人、家族とお話しや意見を聴き、職員会議や研修会を行い、意見交換をして、介護計画に反映させている。(どんな思いでシート、長谷川式、BS法など用いた職員研修)また、個別に24H排泄パターンシートや、トイレのできる事、できないことアセスメントシートなど使い、介護計画に反映出来るように努めている。		様々なアセスメントの方法を学んで、これからも職員研修などで取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が近づくと、ケアマネと各ユニットごとに話し合いを行い、見直しをしている。対応できない変化があった場合はその都度カンファレンスを行い、新たな計画を作成し、家族の方の理解を取っている。また、その都度希望なども聞くようにしている。		日頃から、入居者の様子や変化などを、職員間で意見を交わし、次の介護計画へ活かせるように、引き続き努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、昼、夜と記録をとっている。介護計画を毎日の記録に入れ、誰でもわかりやすく、見やすいようにしている。そして、それぞれユニットごとに見直しをし、話し合いを行っている。個別に、ケアプランを毎日の記録と連動させる事によって、ケアプラン内の支援計画の徹底を職員に行っている。		毎日の記録の中に、ケアプランが評価出来る様になっており、引き続き個別の支援計画の徹底を行っていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、受診時や緊急の対応、買い物、地域行事への参加、外出支援等、柔軟な支援を行っている。また、家族のお泊りもいつでも可能にしている。		外出支援(買い物、地域行事参加等)を引き続き行っていききたい。今後、空き部屋利用のショート、日中の共用型認知デイなどの支援をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回、消防訓練や地域行事(祭りなど)への参加、また、行事の際には地域の方や、小学校へ参加を呼びかけている。暖かくなり、天気の良い日には朝、入居者の方と一緒に小学生の登下校の見守りを行っている。また、地元の警察署からおまわりさんが楽舎に立ち寄り下さり、入居者の方と交流を深めている。		福祉体験学習(小・中学校)など受け入れている。西田公民館の方々など時々、お茶を飲みに来て頂いている。県高等技術学校の養成機関として受け入れを行っている。また、今は寒くてできないが、暖かくなってから、小学生の見守りを引き続き行っていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者さんへ紹介したり、他のサービスの利用を行うよう、支援を行っている。ケアマネジャーに空き部屋情報を流したりもしている。		グループホームに入所申込をされた方など、他の事業所への紹介などしている。(特養申請代行、介護保険申請手続きなど。)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の研修に行き、月1回職員研修にて職員へ研修を行っている。		地域のグループホームの小規模の連絡会(集まり)にてあんしん支援センターの方に指導してもらったりしている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が入居前より、信頼しているかかりつけ医を継続し、入居中の様子を医師に文書で情報提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。		入居前には必ず面談し、かかりつけ医師より細かい指示を出してもらっている。かかりつけ医師との関係を築きながら、入居者がより良い医療が受けられるように支援したい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神科医師と情報を提供しあい、時には電話連絡をし、相談している。入居者が医師の診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		<p>精神科医と情報交換して、入居者がよりよい治療を受けられるよう支援していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>往診時に医師と一緒に来所される看護師、または入居者が入院されている時の入院先の担当看護師に、今後の健康管理や医療面で必要な事を相談し、支援している。</p>		<p>入居者の方が、よりよい医療を受けられるように今後も看護職の方と相談出来る様につとめていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者が入院されたとき、家族、担当医、職員を含めて話し合い、病院側と情報交換に努めている。また、退院時に今後について話し合いを行っている。1週間に1回は必ず管理者が顔を出している。</p>		<p>入院から退院まで家族、医師と話し合い、入居者がよりよい医療を受けられるよう努めていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時にきちんと説明を行っている。重度化した場合、かかりつけ医、ケアマネ、家族、職員と話し合い、今後に向けての方針を決めている。 終末期に医療が必要な時はかかりつけ医より家族へ説明を行っている。マニュアルを作成して職員間で考えや、方針を共有している。段階に応じて対応していく。</p>	○	<p>マニュアルを作成し、職員間で段階に応じて対応していくよう方針を共有している。入居者にあった終末期が送れるよう家族、医師と話し合い、さらによりよい方針を共有できるよう努めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度や終末期の入居者の医療行為が多くなる場合、かかりつけ医、ケアマネ、家族、職員を含めて、話し合いをし、できる事、できない事の見極めをして、今後の医療方針と支援方針を検討していく。</p>		<p>チームとして支援ができること、できないことをしっかり話しあい、重度化、終末期に向けた支援をしていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>かかりつけ医、ケアマネ、家族、職員で情報交換を行い、移り住む先で、早く環境に慣れられるよう、またダメージを最小限に防げるように努めている。入所中のケアプラン、あるいは細かな情報を送っている。本人や家族の方にとってより良い支援をずっと継続するように努めている。移動後も訪問などをして、関係を断ち切らない努力をしている。</p>		<p>十分な話し合いや情報交換を行い、進めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者1人1人の個性や人格、空間を大切にしている。記録物は持ち出し禁止にし、本人のプライバシーが保たれるようにしている。	入居者への声かけには十分注意し、尊厳を守れるように接するように気をつけている。(方言などは、相手の方に愛情を持って使うようにしているが、馴れ合いの言葉にはならないように気をつけていきたい。)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が、思いや、希望、また話しかけやすいように、職員は優しい声かけを心がけてしている。	個人に合わせて、分かりやすく簡潔な言葉を選んで話したり、納得して暮して頂ける様に統一した言葉がけや、入居者自身に意思決定できる場面を作って差し上げている。(その日の洋服、お茶の時飲みたいもの、食べたいものなど)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、特に決まった時間や日課は作っておらず、入居者のペースに合わせて自由に過ごして頂いている。	個人のペース、体調などに合わせて、買い物やおでかけ(花見、お茶、外食、博物館、友人の家へ遊びに行く、郵便を出しに行く)も自由にして頂いている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔馴染みの理容店など、家族と行かれる方がおられたり、月1回移動美容室(ハッピー号)にきてもらい、本人の希望する髪型や色にしてもらい、その人らしいおしゃれができるようにしている。又、毎朝、きちんと整容の支援をし、(男性はひげそり、女性は髪を整えるなど)つめ切り、耳かき、時にはマニキュア・お化粧を楽しんだり、日頃から支援している。	ハッピー号の利用月1回など、引き続きその人らしくきれいに過ごして頂ける様に支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを一緒に行い、作り方を教えて頂きながら調理している。何が食べたいかを入居者の方に聞いたり、一緒に献立を考えている。季節に応じて、食事の際に、「今日は冬至なのでかぼちゃですよ。」などと、話をしながら食べて頂いており、季節の旬の食材をおいしく食べて頂けるよう心がけている。誕生日には好きな献立を取り入れている。	調理の際のごはんが炊けるにおい、魚の焼けるにおいなども、おいしいにおいであり、「今日のお昼は何でしょうね～」と、入居者の方と会話している。又、毎日「バタカラ体操」をして、おいしく食事が出来る様に支援している。エプロンは使わず、タオルやおしぼりなどを使って、食べこぼしの汚れを職員がきれいに拭き取って頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ポットに常に温かいお茶を用意し、誰でも好きな時に飲めるように置いている。お菓子なども、入居者がゆっくり座って話をする際には、職員が出すなどして、日常的にいつでもお茶会が楽しめる環境を作っている。お酒が飲みたい方には、家族と本人と話し、1日の量を決めて、担当の職員がいる日に飲んで頂いたりしている。	現在は、自分から「もうやめます。」と禁煙され、煙草は吸われないが、以前は希望があれば、定位置を決めて男性職員と一緒に、危なくないよう見守りをしながら、煙草を楽しんで頂いていた。(煙草OK)お正月など、特別な日は、皆さんでお酒を飲む機会がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1Hおきの排泄パターンの記録を取る等して、個人の排泄リズムを知り、声かけ、誘導を行っている。生活の中より、その人に寄り添って、自分自身の事として捉え、オムツは気持ちの良い物ではないので、できるなら、はずすことを目標にし、布のパンツへ変える事ができた方が3人以上おられる。夜間は定期的に巡回トイレ誘導をしている。		排泄リズムを知り、失敗がより少なくなるように引き続き支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じた温泉湯(ゆず湯、菖蒲湯)にしたり、湯加減を好みに合わせるなど工夫している。お風呂も毎日沸かしており、いつでも入りたい時に入っている。		寝る前に足湯をして温まって頂いたり、陰部だけでもシャワー浴をして頂いたり、一人一人に合わせて、引き続き支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室、和室、ホールなど、好みの場所で休息、仮眠をとって頂けるようにしている。その人の生活習慣や、身体レベルに応じて、ベッドや布団など、安全に休んで頂ける様にしている。		入居者の方が、安心して休める様に、引き続き支援していきたい。
I				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や草取り、掃除などの、その人の得意な事をして頂き、生きがいへつなげていけるよう努めている。音楽療法への参加や、楽舎カルタ(入居者のオリジナル)、入居者一人一人の紙芝居など、多彩なレクリエーションを毎日行っている。		これからも生活歴の中から、その人の好きな事を聞き、編み物をして頂いたり、お花を育てたり、生花や(おばら流、壬生流)習字をして頂いたり、自由に散歩やドライブなど、続けていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話をし、了解の下、おこづかい程度の金額は本人に持っていて頂き、希望があれば、外出時に自分のお金で買い物を楽しんで頂く等している。		外出した時には、自分の欲しいものを、おこづかいから買い物して頂いたり、希望があれば、いつでも自分のお金で買い物ができるよう、引き続き支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	手紙を出したい、散歩がしたい、近所に住んでいる友人を訪ねたいなど様々な希望に沿って支援している。		体調、天候など外出可能であれば、希望に沿って引き続き支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	紅葉狩り、お墓参り、温泉など外出行事として計画を立て、事前に下見に行ったりして出かける支援をしている。また、それをケアに取り入れ、記録として残している。		季節に応じた外出を引き続き支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもかけられるようになっており、職員室から、本人の望まれる人への電話の支援を行っている。その際、職員も少し会話の中に入って、GH内又は昔馴染みのことなどを知らせて差し上げたり、知るようにしている。又、手紙を書かれ、郵便局まで一緒に出しに行くなど、手紙の支援も行っている。		家族や、兄弟、知人の声を、電話で聞かせてさしあげ、安心して頂いている。引き続き、いつでも家族の声が聞けるよう、支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者があった時はいつでもお茶が用意でき、居室で寛げるように支援している。		継続支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会などで職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベットの柵については、安全を第一に考え、転倒、転落防止の為家族の了解のもと、柵をしている。		ベッドについては2本柵のみしている。身体拘束のある方は、現在なしである。引き続き取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はカギをかけずに、自由に出入ができるようにしている。居室の窓もオープンである。		引き続き、カギをかけない支援をしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	どこまでも行き来が出来る様に、スタッフルームからでも入居者一人一人の様子が把握しやすい作りである。常に誰かが、ホールにいる様にしている。		居室へ入る時は、必ず穏やかに外より声をかけてから、ノックなどしてから入るようにしている。夜は頻回に巡回を行い、所在確認と安全に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	段差など、テープなどで色をつけ、分かりやすくしている。居室においているタンスのコロなど転倒の危険がある場合、家族と話し合いの下、取り外す事がある。		自傷行為のある入居者の方の場合、台所の包丁などカギのある所で保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応について、職員研修を行っている。ヒヤリハットを書くように、職員間で話し合い(コメントを書く欄がある)再発防止に努めている。		一人一人に合った運動をし、転倒予防に努めている。また、今後も内部、外部研修に参加し、知識を学んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員で緊急についてのミーティングを行い、また消防署から来て頂き、急変時に施行する救急法(気道確保、心マッサージ等)やAEDの装着方法または、初期対応の訓練を受けている。		今後も、定期的に消防署の方に来て頂き、職員が救急法の訓練を行って行く。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員が適切に入居者を避難出来る様に防災担当者が防災マニュアルを作成して、防災訓練を施行している。また地域の駐在所、自治会に協力を得られるように働きかけている。		地震情報などケーブルTVにて、水の量、火災場所を確認している。消化器は6本設置してある。又は、地区の会に加入するなどしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に、家族に起こりえるリスクについて説明を行っている。また、状態の変化等あれば、その時に起こりえるリスクについて、かかりつけ医師、ケアマネ、介護職員と話し合い、家族に説明し、話し合いの機会を持つようにしている。		契約時、状態の変化時、リスクについて家族などに説明し、その都度対策を考えて行きたい。ヒヤリハットを閲覧し一言メッセージ、反省文を書いて事故防止に努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者全員、毎朝バイタルチェック時に身体の変化を観察している。申し送り時に報告を行い、その時職員同士で話し合っている。異常があれば、看護師、管理者に報告している。又、往診先の医師へ報告し指示を受けている。		毎日の暮らしの中で体調の変化に気をつけ、早期発見に努めてかかりつけ医につなげている。継続的に行って行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい職員も入り、全員が入居者の服薬する薬の目的、副作用、用法や用量について理解をし、薬事提供があるので、職員全員の把握に努めている。薬の変更時などは、きちんと申し送る等して、情報交換、把握に努めている。		全職員が薬事提供など、見られる様になっている。職員が薬について把握できるように努めている。(薬のチェック表有)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事はバランスよく、繊維のあるものや野菜をたくさん取り入れた料理を作っている。水分もたくさん取っていただけるように気をつけ、お腹のマッサージをしたり、毎朝ラジオ体操や、建物の端から端まで往復して歩く運動をして、体を動かすようにしている。		入居者一人一人に合った便秘予防を行っている。体調を見て、下剤又は浣腸にて排便コントロールをしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、自分でできない方に対しては、必要な支援をし、清潔に保っているかどうか、確認を行っている。		リッシング、ブラッシング、ポリデント使用などにて個々にあった支援で継続して行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は気をつけており、把握出来ている。栄養は、バランス良く確保できている。入居者の個人に合わせた、やわらかめのごはん、きざみ、とろみ等にしたり、食事時間も個人に合わせ支援している。		毎日の食生活を大切に、一人一人のニーズに応じて支援していきたい。1日の介護録摂取量を記入している。そして、看護師につなげている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、手洗い、うがい、手すり等のアルコール消毒(次亜塩素酸)をきちんと行い、感染症予防に努めている。入居者、職員全員がインフルエンザの予防接種を、11月に受けている。疥癬、血液、汚物類は必ず手袋を使用し、感染予防に努めている。		玄関にマスク、手消毒等予防の貼り紙をしている。今後も、感染予防に努めていきたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、食器や調理器具を塩素系ハイターで消毒を行っている。食材は、なるべく地元産で新鮮で安全な食材を使用し、熱を必ず通している。		食洗機使用している。なるべく、新鮮な平田で取れるものを食べて頂いている。食中毒にならない様、衛生管理を引き続き徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横の花壇には、入居者と植えたお花があり、また地域のボランティアの方が花を生けに来て下さったりと、明るく、入りやすい雰囲気になっている。目での支援も含め、季節の花(シクラメン、コスモス、シュウメイ菊など)を植え、季節を感じて頂いている。		落ち葉などきちんと掃除をして、玄関周りをきれいにし、今後も四季折々の花を入居者の方と植えていきたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、台所など、家庭的な雰囲気であり、ソファやリクライニングの椅子が置いてあり、入居者は思い思いの場所でくつろいでいる。また、畳のスペースがあり、そこで休むこともできる。食堂も、廊下も暖かい日差しが差し込み、廊下のベンチでは入居者の方が座って井戸端会議を楽しめるようにしている。		玄関や、廊下には、入居者の方々が作られた季節にちなんだ作品を飾ったりして、そのときの季節の話をしなが、季節感を感じられるようにしている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂(ホール)にはソファが設置してあり、仲の良い入居者同士でお話しながら過ごせる様にしており、畳の空間を利用して個々が過ごせる居場所の確保に努めている。		引き続き、継続して支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者が家で使用していたなじみのある家具を置き、家族とも話を聞きながら、本人が使いやすいように布団やベッド、物の配置などしている。(自宅と同じ位置に家具を配置)		本人の使いやすい家具などを、これからも使用して頂ける様に引き続き支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、トイレや居室、ホールの掃除を行い、その際に空気を入れ替えするなどして、施設独特の気になる臭いがしないよう、徹底している。その日の気温に合わせて冷暖房を調整し、職員が気をつけて、こまめに管理している。ホールと廊下等の温度差がないよう、常時扉は開放している。		居室も寒く(暑く)ならないように、職員がこまめに確認して冷暖房の調整をしたり、窓を開けて換気を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、トイレ、入浴場など手すりが設置されており、安全に行動できるようになっている。建物内は段差がない様に作られており、入居者は、ホールの床をモップがけをしたり、洗濯物をテラスに干したりと、その人が得意な事、出来る事をしている。		職員で、「もしかしたら」こんな物、所が危ないかもしれない、入居者がどんな行動をされるか？環境についてよく話し合い、安全に生活して頂ける様、環境を整えていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室など、場所の貼り紙は全て入居者の目線の高さにしており、見えやすい色や、濃さで書き、わかりやすい様に配慮している。何でも大きく、入居者に見えるように名前を書いたり(食器や席)一日の日程や予定などを居室に貼る等して、混乱がないように工夫している。		入居者の方が生活する上で、分かりやすく、行動できるように、引き続き工夫、支援していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス(ベランダ)では、天気の良い日には椅子を持ってひなたぼっこをしたり、洗濯物を皆さんでわいわいと話をしながら干したりしている。また外には花壇や畑があり、入居者の皆さんで野菜を育てて収穫したり、花の種をまいたり、楽しんで活動されている。		入居者の方が、日々様々な活動を楽しんで出来る様に、引き続き支援して行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

住み慣れた地域の中で「入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え、命を護る」「一瞬の笑顔を求めて」を基本理念とし、認知症高齢者の方々に安らぎをもたらし、心通い合うよき生活の場を提供できるグループホームを目指して、日々努力しております。日課を作らず、毎日個々の入居者のペースに添い、入居者と毎日明るく、楽しく、元気良く、心豊かに生活を送って頂けるように配慮し、支援しております。「優しさをシャワーのようにかける 見つめる・微笑む・誉める・タッチする・抱く・一緒に過ごす・認める・一緒に笑う・おしゃべりする・大事にされていると本人が感じる様に接する事が大切」を東舎ユニットのケア理念として、日々取り組んでおります。～1年間ありがとう会～を年のくれに1年間の締めくくりとして、家族・地域の方々を招待し行っています。～大切な人へ母・父からの贈り物～をテーマに掲げ、家族そして地域の皆様のかけはしになるように頑張りたいと思います。